

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 15日

事業所名 スポーツとまなびのひろばSAIYO池田校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	29%	71%	安全に運動できるスペース確保	日々の整理整頓・収納スペースの活用
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	人員配置基準を守る	余裕を持ったスタッフ配置・求人の継続
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	57%	43%	既存の形で安全重視	人的サポートで安全に配慮する
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	57%	43%	ノー残業を目標	業務分担・ICTの活用検討
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86%	14%	職員への周知徹底	頂いた意見を職員間で共有し具体的施策を実施
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	HPで公表している	継続する
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	14%	86%	外部評価を検討	今後検討していきたい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	動画研修を導入した	法定研修・事業所研修の確保を継続
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	継続する	現在できているアセスメントを継続する
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	継続する	アセスメントに基づき現状課題と具体的目標
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	療育MTGの継続実施	チームで立案・振り返りを継続する
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	チームで進める	職員全員が療育について意見を出し合う
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	5領域を意識したプログラム	子のニーズと5領域との関係を明確に支援を実施する
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	支援計画に反映する	子どもの課題に合わせて集団と個別支援を実施する
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	始業ミーティングの継続	業務のすり合わせ、療育内容の共有を行い適切な支援を行う
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	業務後ミーティングの実施	活動記録と共に支援状況の振り返り時間を作って共有する
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	役割分担を行う	業務の偏りを減らし、分担する事で多くの視点で支援の検証・改善を図る
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	面談計画に沿って進める	6か月に一度ほ保護者面談計画に合わせてモニタリングを実施する、個別必要があれば行う
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	5領域に沿った総合的支援プログラムの実施	報酬改定に合わせて適時必要な支援を行う

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児発管が参加	基本児発管が参加するが、適時最適な人材が参画する
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	保護者から連絡をいただき対応する	保護者様にご協力いただき進めていく
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	該当なし	該当なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	100%	該当なし	該当なし
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	29%	71%	相談支援員を介し情報の共有を行う	移行する利用者に合わせ連携する
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	43%	57%	積極的に研修を受ける	案内など研修情報より必要な研修を受講する
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	地域の学校に通学するため必要なし	利用者ニーズがあれば機会を設ける
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	機会があれば参加する	情報を集め参加する
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	SNSを活用する	現状行っている情報共有から療育への理解を図る
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	29%	71%	行っていない	機会があれば検討する
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時・面談時に説明する	契約時には丁寧な説明と変更時には説明を行う
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	電話連絡などで平時より連絡をとっている	平時よりのコミュニケーションの継続、電話連絡など様々な方法で相談窓口をつくる
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	14%	86%	特に対応していない	保護者ニーズがあれば対応を検討していきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情の前の報・連・相を行う	報連相の徹底
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	月に一度の通信の発行	ツールを使い分け保護者に発信していく
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	従業員全員徹底する	情報の取扱いは厳重に行う
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	86%	14%	個別対応する	個別意思の伝達方法や丁寧な対応を心掛ける
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	現在はなし	地域の活動への参加を検討したい

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	57%	43%	委員会の設置と会議を開催している	BCPと合わせマニュアルの整備と研修を行う
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	BCPに則り揃えている	非常時に備えた計画と準備を行う
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	委員会の設置と会議を開催している	決定事項を従業員へ周知徹底する
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	個別支援計画に記載し同意説明を得る	継続して個別必要であれば支援計画に記載する
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	86%	14%	保護者より情報を記載してもらい対応している	医師の診断や保護者からの情報を活用する
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	86%	14%	日ごろからの共有	些細な事からヒヤリハットを作成していく